
あたいたらサイキョーね(ドヤッ

わさび@入院中

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたいつたらサイキョーね（ドヤッ

【Nコード】

N2503Z

【作者名】

わさび@入院中

【あらすじ】

これでも結構多分優秀？な筈なちくわたけのこわさびは刀を買った抱いて寝た
神様が夢に出てきて
起きたら知らない世界だきゃっほい

主にネタと妄想と軽いノリと少しの現実で作られていますので、期待はしないでください。

プロローグ(前書き)

やっちまったぜ

プロローグ

突然ですが俺は刀剣シヨップに居る。
おっと、自己紹介がまだのようだね。

俺はちくわ〓たけのこ・わさび

中弐病という不治の病を患っているんだ ミ

え？うざい？

俺のオリハルコンハートも少し爆砕したぜ（キラッ

これでも京大の薬学部の二年生だぜ

折田先生像の制s（殴

今日は刀を見に来てるんDA

俺の趣味だぜ（キラッ

「以下は都合により割愛です」。

な、ナンダッテー!?

↓

「君は独り言が凄いな〜少し黙ってくれないかな？」

これはこれは店長さんじゃないですか

「あ、はいすみません」

「全く困るなあ」

「すみません」

謝るしかねえ（キリッ

「およ？店長？これは？」 「室町初期、無銘」

二尺三寸程の石鞘の刀がちなみに650g
が36万円で売っていた

「うひゃ〜軽い、そして薄いし反りがまた…これ買うわ」

そして買ってきて家で手入れだの目釘の点検だのして寝たんだわ。
大切な愛刀を抱いて

なんせ大学生に36万円はでかい。
貯金パーだね

そんな無計画で大丈夫か？
大丈夫だ、問題ない。

プロローグ（後書き）

だが反省及び後悔はしていない。

第一話 暇神様ノ気紛れ（前書き）

…はあ

反省はしていない

第一話 暇神様ノ気紛れ

「わざわざよわざわざ私の声が聞こえますね」

俺はいつの間にか大瀑布を見渡せる断崖絶壁の上の原っぱに居た。そしてなんか赤髪のないすばでいな姉ちゃんが話しかけてきた。

「はい、聞こえますよ」

「私は神です。貴方は神に選ばれし人間です。暇つぶしの相手になつて貰います。私の管轄する世界に来てもらいますね？貴方の世界の神には許可を貰ったので大丈夫です。せめてもの慈悲にあなたの願いを3つ叶えましょう。」

「ま、マジか」

「マジも大真面目です」

「じゃあ…ゴニョゴニョ」

「それくらい楽勝です。行ってらっしゃーい」

微笑みながら手を振る神様や景色がだんだん歪んでいき、目が覚める。

どうせ夢だ

どうさ

「マジか」

それが新世界で俺が発した記念すべき第一声だった。

第一話 暇神様ノ気紛れ（後書き）

主人公スベック

通称：葵

神様の餞別：不老不死

：便利魔法

：?????

武器：あの時買った刀

：弓

特技：調合

：開発

：投薬治療

あたいったらサイキョーね

第二話 不屈き轟龍に制裁を（前書き）

ぬわー

第二話 不届き轟龍に制裁を

私が目覚めたのは雪山の頂上付近だった。
モンスターハンターの世界だと推測する
某古龍の抜け殻が上にあつて、ポポがそこらを闊歩してるんだもの…
今の俺の状況だが正直なにこのカオス

雪山のド真ん中に布団を敷いて寝ているという状態である。
隣に刀がある分まだ安心だ。

刀で試しに小指を切り落としてみる

「いだあつ!?!」

そしたら小指が生えてきた。

「おお流石神様、想像してたのと一緒だ!」

一人テンション上がってるが、今は裸足だジャージだ
雪山だと異常に寒いんだが…

なんとということでしょうスニーカーが枕元につ

「神様優しい!」

そう神様の優しさに涙してスニーカーを履く
刀を何故か巻かれていた帯に挿して歩き出す。

布団? 放置さ

「おお寒い寒い。」

ポケットに手をつ突っ込みながら刀を挿したジャージ姿のメガネが雪
山を歩く光景にモンスターも凝視する。

幸い今日は晴れている

下山でも目指そうと歩いていると、洞窟付近でゾクツとして振り返
ると 「ええええでかいでかいおかしなおかしい」

轟龍ティガレックスが其処に居た。

いや、いくら不死身でも怖いから。

あんなでかいとか聞いてないからあんな速いとか知らないから

「心の中で現実逃避しながら突進を避ける」
ま、魔法がある！

「ファイア！」

ライター程の火が指先から出る

「…」

「ウインド！」

そよ風がry、

ティガは空気を読んで威嚇だけにしてくれていた。

ありがとう、でもでかい

叫び突進してくる巨竜

突進を避けて抜き打ちで尻尾を切ると、スパツと切れて血飛沫が舞い、雪を真紅に染めてゆく

これでも4段ですから（ドヤツ

流石にゲームみたいな何度斬っても死なないという事は無く、ハンターも一死でゲームオーバー

目の前の龍が現実の存在だと…

「現実是非情だねえ」

そう零す余裕が命取りとなった。

血を拭き、納刀する。

また突っ込んでくるーと思いきや、一瞬で間合いを詰められて殴られる。吹っ飛んで崖から真っ逆様だ。

辺りの雪を血で染めながら意識を手放した。

そして肉体は再生してゆく。

近くをたまたまハンターが通りがかった。

ハンターは葵を担ぐと村へ急いで戻った。

倒れていた人は刀を手放さなかった。

「ん…う」
俺が目を開けると誰かの家のようだった。
ベッドに寝かされて布団が掛けられている。
手には刀

この刀は新秋つて呼ぶ事にした。

「俺は確か…でかい奴に…」
ジャージが切り裂かれていた。
傷はもう完治していた。体の優秀さに感嘆する。そして…着替えだ
ろうか？

これはゲームで見たぞ。マフモフだ。
マフモフ装備一式が置いてあった。
着てみたがかなり暖かい。

刀も腰に挿せる
好奇心でアイテムboxを漁る
なんと、弓を見つけ出した。

少し死ぬまで借りよう。葵は覇弓を手に入れた。後ろからなにやら
気配g

「恩人の家で盗みとは…良い度胸だなオイコラ」
「あの…これはですね」
目が泳ぐ

覇弓を持っているあたり凄腕ハンターなんだろうか…
「ひゃっ!?!」
突然押し倒された。

ちよおま俺オイシクナイヨ
「へえ…中々綺麗じゃねえか…」
「あの…俺はですね…えと」

?
ハンターは冗談だと笑い椅子に座る。

「何でお前さんは一人称が俺なんだ？」

興味があるらしく聞いてくる。

「まあ…成り行きですわな」

適当に誤魔化してケラケラと笑う

「俺は葵と言います。よろしくです恩人さん。」

立ち上がって敬礼してみる。

疑問符を浮かべられたが何事も無かったかのように座る。

「俺はカイトル。ポツケ村のハンターだ」

差し出された手を握りしめ、握手を交わす。

「んでカイトルさん。ハンターになりたいのだが」

俺は集会所に行き、登録を済ませた。

ギルドカードを貰った。カイトルさんを見せて貰ったんだ。

HR7のベテランらしい。ライトボウガン使いのようだ。

カイトルさんに弓をくれないか？

と交渉したら、使わないからと龍弓「国崩」を貰った。

なんて良いオヤジなんだ…

村長に紹介されたんだ。そしたら一軒家貰ったんだ。

村長リスペクトです。

住むにあたり、掃除していたりしたら、日が暮れたので今日は寝る。

村長から貰ったお小遣いから食費を捻出した。

1500zって結構大金だよな。

お休み

こうして、暫く薬学から離れハンターとしての生活が幕を上げた。

第二話、不屈き轟龍に制裁を（後書き）

やっちまったぜ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2503z/>

あたいたらサイキョーね(ドヤツ)

2011年12月9日00時49分発行